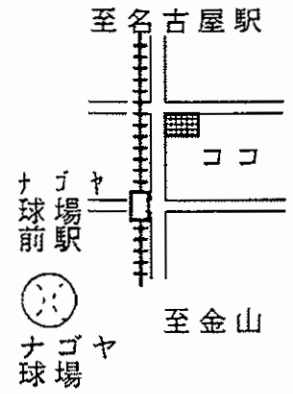


補償コンサルタント情報コミュニケーション誌

補償ミニコミ

発行日 発行所 (株) 新日 TEL 052-331-5356 編集者
3ヶ月毎1回 名古屋市中川区山王一丁目8-28 FAX 052-331-4010 秋山学



平成6年度を迎え

工期に追われ、残業の連続であった年度末、そして残務仕事も一応終えて、毎年のように張りつめていた緊張がぬけ、外の天気は良く、なんとなくけだるい憂うつな時期となりました。

この時期には、今年度は例年並み、もしくはそれ以上の業務が受注できるかどうか不安な気持ちも加わり、まして平成6年度は、いまだ国家予算も通過していない状況にあり、きびしい一年が予想され、なお一層重い五月病といった感じですが、さて、新日補償調査部では、平成6年度に向け、職員の増強・育成、さらなる研鑽(補償業務管理士資格者現在延19名から25名程度まで)により、

精度の高い成果と、起業者がほんとうに望むような、いわば痒いところに手が届くような報告書づくりに心掛けて、これまでお世話になってきた起業者は当然ながら、今までは受注できなかった新規起業業者での業務の受注が出来るよう努力したいと考えています。

平成6年度、新規受注先に向けて。

ゴールデンウィークが明けエンジン全開。日頃、お世話になって

いる起業者の皆様には、これまで以上の御指導をお願いするとともに、補償業務についての難問題、わずらわしい問題について、

困難であるとともに、獣医師や畜産技術者による研究もこの方面にはあまり積極的になされていないため、被害と工事との因果関係の究明は極めて困難なことにも原因しているものと思えます。

私が担当した家畜の種類は、乳牛、肉牛、鶏等であるが、影響の内容は下表であり、これら工事中に発生被害は直接工事の騒音や振動が影響しているものではなく、工事を含まれ多種多様な因子が複雑に作用していることが多い。

特に畜主の意識による

チヨット紹介

公共事業の工事に伴って発生する騒音・振動が周辺の畜畜に与える影響及びその被害に対する補償については、結構、多方面の事業で問題となっているものの、調査結果・補償の内容については多くの場合、公表することを敬遠する傾向にあります。

それは、対象が生き物(家畜)であるため、騒音や振動に対する馴れ、これまでの畜主の飼育管理の方法、気象等に大きく影響されるものであることから畜畜への影響を定量的に把握することが

畜種	多発の時期	影響多発の内容
乳牛	泌乳最盛期 妊娠前後 分娩前後	産乳量の減少・早産・流産 乳房炎・乳腺炎 胎毒・胎毒 胎毒・胎毒
肉牛	肥育期間 繁殖期間	増体率の低下 受胎率の低下 胎毒・胎毒
採卵鶏	採卵期 産卵期	産卵率の低下 産卵数の減少 産卵数の減少
各畜種	産卵期 産卵期	産卵率の低下 産卵数の減少 産卵数の減少

偶感

開港都市神戸で育った私は、小学生の頃から「サンキュー」と云う言葉はよく使っていた。勿論それはHの発音ではなくSの発音であった。元来日本語にはHの発音はないから子供には無理からぬことである。また、日本語にはbの音はあるが、vの音はない。しかし、先人は、vの発音の場合には、「ヴアイオリン」の如く、ウに濁音を付して、bの「バイオリン」でないことを明示していた。しからば、発音は正しく出来なくとも、SではなくHであることを明示すべく、サ行に半濁点の○印を右肩に付して、「サンキュー」、「サード」、「シンクタンク」などとしたらと思うのである。そう思う「アイシンクソウ」が「シンク」の沈んで困るし、投げた「スローボール」が

ところが大きく、事業に対する不満、施工業者の対応の問題により、平常時でも発生する疾患や事故を工事による被害として問題提起がなされることも少なくない。

従って、畜主と工事関係者とのコミュニケーションの保持は、被害が発生した場合のスピーディーな対応が可能なあり、事業損失補償問題として最も重要な事項であると痛感している。

(M・A)



補償余話
駆け出しの頃(2)

何の切っ掛けで現在の「補償コンサルタント」の仕事に携わるようになったのか、このことを思い出すと、やはり人との出会いを感じずにはいられない。昭和四三年の夏、学校を卒業して約一年半位の無我夢中の時代、現場に於いて立竹木、工作物等の調査をしているところから、汗だらけの自分達と違い、ネクタイを締め建設省の人に案内されて、降りた紳士こそ不動産鑑定士だったのである。

当時一緒に現場で指導を受けていた建設省の係員の人に、何も知識のない私は、ぶしつけながらおもしろい話だ。「どういふ立場の人ですか。」「と。「あの方は不動産鑑定士だ。」「笑い話ですが当時私は鑑定というキーワードから連想することが出来たのは「運命鑑定」という言葉である。そして不動産鑑定士の説明を受け、その将来性を教えられた。これはいけるとまず感じた。そしてさらに色々状況を知ったところ、特別試験が終わっているが(後で知ったこ

とだが特別試験は自分には受験できる資格も経験も無かった。昭和四〇年に終わっていた。国家試験として受験出来ること。早速その日の夜のうちに「丸善」に行き受検案内等の書籍を買った。その年はすでに昭和四三年年度の試験は済んでおり、四四年の試験まで九ヶ月位の時間があった。翌日、現場でその鑑定士たる者を教えてくれた担当者、受験する旨話したら、なんと「あわて者といわれた。」「そして、「まあ受けてみることにしよう。」「とつけ加えられたこととを今でも良く憶えている。私の人生のいわば恩人にあたる当時の建設省の係員(この四月建設省を退職されていた。)の方には以後何かと指導を受け、人との出会いの大切さと自分の思想を伝えるには何らかのきっかけが必要であることを今も銘記している次第である。

個人的には昭和四三年五月に結婚し、学生時代のゆるみ切った生活からの転身と、実務で忙しい毎日の繰り返しのなかから将来に向かっての希望を、持てるものを見つけたと毎日の仕事にも張りが出

「スローボール」の遅い球と間違えられることも文章の上ではなくなるであろう。lとrを区別するのには発音はラ行も困難であり、「ライス」を「米」、「しらみ」の何れにとるか前後の関係より判じるほかはない。

(M・K)

つづく(Y・W)

来て、残業も苦にならなくなかった。当時は昭和三十年代の開発優先から、「新都市計画法」の制定による市街化区域と市街化調整区域の区分を中心とした変換期であった。又、住宅地造成事業法による開発の駆け込み時代、毎日が午前様であった。

試験までの九ヶ月を3つに区分し、試験科目毎に週間予定を組んで夢中で勉強した。酒を飲まなかったこと、新婚であったこと等が幸いし、勉強に集中できた。時間がな